

「スポーツアニメ・漫画とスポーツ競技者人口との関係」

Relationship between sport anime and the number of Athletes

学籍番号:1K08B093-3 氏名:佐藤悠樹

指導教員: 主査 松岡宏高准教授 副査 リー・トンプソン教授

【研究目的】

現代社会における日本のアニメ・漫画の興隆は著しく、日本のアニメ・漫画は世界的に最先端であるのと同時に、その歴史も長く古い。

本論文では、日本のアニメ・漫画の中でも「スポーツ」を題材としたものについて取り扱う。日本のスポーツアニメ・漫画作品の中には、『SLUM DUNK』(井上雄彦作、1990年～1996年連載)や『キャプテン翼』(高橋陽一原作、1983年～1986年放送)等のように、題材となったスポーツの競技者人口に影響を与えたとされる作品が多々存在する。具体的には、バスケットボールの競技者人口やサッカーの競技者人口が、それぞれ『SLUM DUNK』や『キャプテン翼』等の影響を受け、増加したと言われている。つまりは、スポーツアニメ・漫画とスポーツ競技者人口との間には、何らかの関係があるのではないかと考えられる。

そこで、本研究では、複数のスポーツアニメ・漫画作品において、それらが世間に公表された時期と、題材とされたスポーツの競技者人口の推移とを照らし合わせることで、スポーツアニメ・漫画とスポーツ競技者人口、両者間の関係について探ることを目的とした。

【研究方法】

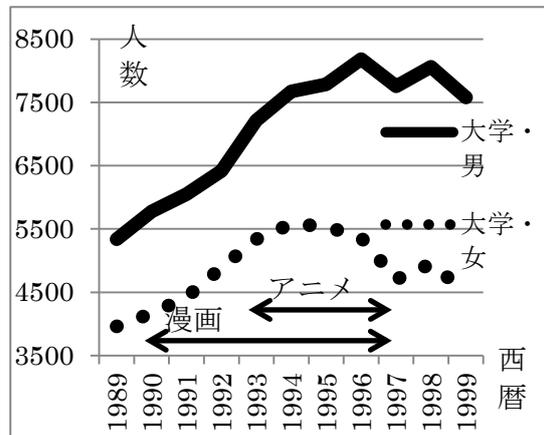
本研究では、スポーツアニメ・漫画作品のうち、アニメはテレビで放送されるテレビアニメと、漫画は漫画雑誌に連載された時のもの(よって、単行本等は含まない)についてのみ扱い、具体的に「バスケットボール」、「アメリカンフットボール」、「硬式野球」、「サッカー」、「硬式テニス」の5種目を題材とする11作品を対象とした。スポーツ競技者人口については、各スポーツ競技団体に一競技者として登録している者の人数を指す「スポーツ競技者登録数」を用いることとし、「財団法人日本バスケットボール協会」、「社団法人日本アメリカンフットボール協会」、「財団法人日本高等学校野球連盟」、「財団法人日本サッカー協会」、「財団法人日本テニス協会」の計5団体から、約10～30年分の競技者登録数データを入手した。

【結果】

研究の結果、複数のスポーツアニメ・漫画作品において、題材とされている種目の競技者登

録数が、作品の放映・連載時期に増加、または放映・連載終了後に減少する傾向が見られた。

具体的な例を挙げると、漫画版『SLUM DUNK』の連載期間である1990年から1996年にかけて、大学生男子におけるバスケットボールの競技者登録数に関して、1992年と1995年に登録者数を急増させている。また、連載終了後、1997年と1999年に2度、登録者数を激減させている。女子に関しては、1991年に登録者数の増加の割合を増している。また、連載終了後、男子と同じく1997年と1999年に2度、登録者数を激減させている。テレビアニメ版『SLUM DUNK』の放送期間である1993年から1996年にかけては、男子に関して、1995年に登録者数を急増させている。また、放送終了後2度、登録者数を激減させている。女子に関しては、1993年から1994年にかけて登録者数を増加させている。また、放送終了後、男子と同じく2度、登録者数を激減させている。(下図を参照)



しかし、本研究で得られた結果は、単にスポーツアニメ・漫画作品の放送・連載時期とスポーツ競技者登録数の推移とを照らし合わせることで得られたものであり、あくまで推論にすぎない。今回の結果を学術的に信用するものへと高めるためには、スポーツ競技者登録数以外のスポーツ競技者人口(スポーツ実施者数等)を用いた研究や、OVA(オリジナル・ビデオ・アニメ)作品や単行本作品を用いた研究、各テレビアニメ作品における視聴率を考慮した研究等が必要であると考えられる。